

記載例

(別紙様式)

研究指導計画書・報告書

平成 年 月 日

医科学教育部 **博士課程** 医学専攻

学生番号 _____

氏 名 _____ 印 (名前は自署又は記名押印)

主指導教員名 _____ 印 副指導教員名 _____ 印 アドバイザー教員名 _____ 印

研究題目 _____

各年次終了時に押印して提出
(計画時は氏名のみ)

各年次終了時の
提出日を記載

年 次	研究指導計画		研究指導実施報告	
	履修予定授業科目	研究計画	研究実施経過報告	指導教員のコメント
1 年次	前期	○○概論 △△演習 □□特論 ・研究テーマの設定をする。 ・CITI Japan の e-learning 講座を受講する。 ・抄読会に参加し、論文の読解指導を受ける。 ・研究設備・機器等使用法の実地指導を受ける。 実験等の実地指導を受ける。 ・予備的な実験を開始する。 ・関連学会・研究会等に参加し、当該分野の視野を広げる。 ・実験等データの解析と解釈に関する指導を受ける。	・研究テーマを「○○○○」と設定した。 ・研究テーマにそった文献を収集した。 ・「○○○○」の手法を学習し、概ね 1 人で実行できるようになった。	主指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 研究テーマについて助言した 2 文献収集に助言した。 副指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 データ収集について助言した。 2 文献収集に助言した。 アドバイザー教員名 _____ 面談日 _____ 1 医療統計が不得手とのことなので評判の書籍を紹介した。

	後期	□□論 △△特別演習	<ul style="list-style-type: none"> ・実験計画立案をする。 ・実験を本格的に開始する。 ・抄読会に参加し、論文の読解指導を受ける。 ・研究設備・機器等使用法の実地指導を受ける。 実験等の実地指導を受ける。 ・関連学会・研究会等に参加し、当該分野の視野を広げる。 ・実験等データの解析と解釈に関する指導を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマにそった文献を収集した。 ・「○○」学会に参加し、意見交換を行った。 ・「○○○○」の手法を学習し、概ね1人で実行できるようになった。 	主指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 「○○」学会に参加するよう助言した。 副指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 結果のまとめ方を助言した。 アドバイザー教員名 _____ 面談日 _____ 1 中間発表会で助言した。 2 結果のまとめ方を助言した。 3 論文の作成状況を確認した。
--	----	---------------	--	---	--

本計画書・報告書により、教育部の研究指導方針に基づいて、研究指導が実施されていることを確認する。

※研究指導計画（「履修予定授業科目」及び「研究計画」）及び研究実施経過報告は主指導教員・副指導教員の指導に基づき作成し、学生が記載する。

※入学時（平成31年度2年次生～4年次生については、31年4月時に）、その時点から修了までの各年の研究計画を記載した研究指導計画書・報告書（博士課程の場合は4枚、修士課程の場合は2枚）を作成の上（研究指導計画の部分（履修予定授業科目・研究計画）のみの作成）、その写しを学務課第一教務係（大学院担当）に提出すること。

※計画が変更となった場合は、その都度、修正した計画書を学務課第一教務係（大学院担当）に提出すること。

※研究実施経過報告：研究指導の進捗状況、実績、成果等を記載する。

※指導教員のコメント：学生の取組み状況、指導内容、指導計画の変更等を主指導教員、副指導教員及びアドバイザー教員が記載する。

※副指導教員及びアドバイザー教員は少なくとも半年に一度は面談等を行い、所見等を記載する。

※面談等は電話やメール等による連絡でも可とする。

※他教育部の教員が副指導教員及びアドバイザー教員になる場合は、「徳島大学における学部及び大学院の学生の研究指導について（平成28年10月19日大学教育委員会決定）に基づき、手続きすること。

※研究指導計画書・報告書は入学次に作成し、各年次の終了時に研究指導実施報告の記載後に氏名横に押印して学務課第一教務係（大学院担当）に提出する（最終年次は学位論文提出までに提出する）。提出された研究指導計画書・報告書は、プログラム評価委員会等で随時確認し教育の質向上に役立てる。また、学位審査時に確認する。

※普遍的な研究倫理観を醸成するためにCITI Japanのe-learning講座を受講する。

（研究指導において、研究倫理教育を行うことを必ず記載。）

記載例

(別紙様式)

研究指導計画書・報告書

平成 年 月 日

医科学教育部 **博士課程** **医学専攻**

学生番号 _____

氏 名 _____ **印** (名前は自署又は記名押印)

主指導教員名 _____ **印** 副指導教員名 _____ **印** アドバイザー教員名 _____ **印**

研究題目 _____

各年次終了時に押印して提出
(計画時は氏名のみ)

各年次終了時の
提出日を記載

年 次	研究指導計画		研究指導実施報告	
	履修予定授業科目	研究計画	研究実施経過報告	指導教員のコメント
2 年次	前期	○○概論 △△演習 □□特論 ・実験データの取得、解析 I (細胞における○○の機能) ・抄読会に参加し、論文の読解指導を受ける。 ・研究設備・機器等使用法の実地指導を受ける。 実験等の実地指導を受ける。 ・関連学会・研究会等に参加し、当該分野の視野を広げる。 ・実験等データの解析と解釈に関する指導を受ける。 ・主指導教員の担当授業の TA, 研究の RA へ参加し、自己の研究遂行だけでなく、学生の指導を通じてコミュニケーション能力やリーダーシップ能力を高める。	・研究テーマにそった文献を収集した。 ・「○○」学会に参加し、意見交換を行った。 ・「○○○○」の手法を学習し、概ね 1 人で実行できるようになった。	主指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 研究テーマについて助言した 2 文献収集に助言した。 副指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 データ収集について助言した。 2 文献収集に助言した。 アドバイザー教員名 _____ 面談日 _____ 1 医療統計が不得手とのことなので評判の書籍を紹介した。

	後期	□□論 △△特別演習	<ul style="list-style-type: none"> ・実験データの取得、解析 II (細胞における○○の機能) ・抄読会に参加し、論文の読解指導を受ける。 ・研究設備・機器等使用法の実地指導を受ける。 実験等の実地指導を受ける。 ・関連学会・研究会等に参加し、当該分野の視野を広げる。 ・実験等データの解析と解釈に関する指導を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマにそった文献を収集した。 ・「○○」学会に参加し、意見交換を行った。 ・「○○○○」の手法を学習し、概ね 1 人で実行できるようになった。 	主指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 「○○」学会に参加するよう助言した。 副指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 結果のまとめ方を助言した。 アドバイザー教員名 _____ 面談日 _____ 1 中間発表会で助言した。 2 結果のまとめ方を助言した。 3 論文の作成状況を確認した。
--	----	---------------	---	---	--

本計画書・報告書により、教育部の研究指導方針に基づいて、研究指導が実施されていることを確認する。

※研究指導計画（「履修予定授業科目」及び「研究計画」）及び研究実施経過報告は主指導教員・副指導教員の指導に基づき作成し、学生が記載する。

※入学時（平成 31 年度 2 年次生～4 年次生については、31 年 4 月時に）、その時点から修了までの各年の研究計画を記載した研究指導計画書・報告書（博士課程の場合は 4 枚、修士課程の場合は 2 枚）を作成の上（研究指導計画の部分（履修予定授業科目・研究計画）のみの作成）、その写しを学務課第一教務係（大学院担当）に提出すること。

※計画が変更となった場合は、その都度、修正した計画書を学務課第一教務係（大学院担当）に提出すること。

※研究実施経過報告：研究指導の進捗状況、実績、成果等を記載する。

※指導教員のコメント：学生の取組み状況、指導内容、指導計画の変更等を主指導教員、副指導教員及びアドバイザー教員が記載する。

※副指導教員及びアドバイザー教員は少なくとも半年に一度は面談等を行い、所見等を記載する。

※面談等は電話やメール等による連絡でも可とする。

※他教育部の教員が副指導教員及びアドバイザー教員になる場合は、「徳島大学における学部及び大学院の学生の研究指導について（平成 28 年 10 月 19 日大学教育委員会決定）に基づき、手続きすること。

※研究指導計画書・報告書は入学次に作成し、各年次の終了時に研究指導実施報告の記載後に氏名横に押印して学務課第一教務係（大学院担当）に提出する（最終年次は学位論文提出までに提出する）。提出された研究指導計画書・報告書は、プログラム評価委員会等で随時確認し教育の質向上に役立てる。また、学位審査時に確認する。

※普遍的な研究倫理観を醸成するために CITI Japan の e-learning 講座を受講する。

（研究指導において、研究倫理教育を行うことを必ず記載。）

記載例

(別紙様式)

研究指導計画書・報告書

平成 年 月 日

医科学教育部 **博士課程** **医学専攻**

学生番号 _____

氏 名 _____ **印** (名前は自署又は記名押印)

主指導教員名 _____ **印** 副指導教員名 _____ **印** アドバイザー教員名 _____ **印**

研究題目 _____

各年次終了時に押印して提出
(計画時は氏名のみ)

各年次終了時の
提出日を記載

年 次	研究指導計画		研究指導実施報告	
	履修予定授業科目	研究計画	研究実施経過報告	指導教員のコメント
3 年次	前期	<p>〇〇概論 △△演習 □□特論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験データの取得、解析 III(マウス個体における〇〇の機能) ・抄読会に参加し、論文の読解指導を受ける。 ・研究設備・機器等使用法の実地指導を受ける。 実験等の実地指導を受ける。 ・関連学会・研究会等に参加し、当該分野の視野を広げる。 ・実験等データの解析と解釈に関する指導を受ける。 ・主指導教員の担当授業の TA, 研究の RA へ参加し、自己の研究遂行だけでなく、学生の指導を通じてコミュニケーション能力やリーダーシップ能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマにそった文献を収集した。 ・「〇〇」学会に参加し、意見交換を行った。 ・「〇〇〇〇」の手法を学習し、概ね 1 人で実行できるようになった。 	<p>主指導教員名 _____ 面談日 _____</p> <p>1 研究テーマについて助言した 2 文献収集に助言した。</p> <p>副指導教員名 _____ 面談日 _____</p> <p>1 データ収集について助言した。 2 文献収集に助言した。</p> <p>アドバイザー教員名 _____ 面談日 _____</p> <p>1 医療統計が不得手とのことなので評判の書籍を紹介した。</p>

	後期	<p>□□論 △△特別演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験データの取得、解析 IV(疾患における○○) ・専攻公開ゼミ（中間発表会等）を実施する。 ・研究設備・機器等使用法の実地指導を受ける。 実験等の実地指導を受ける。 ・関連学会・研究会等に参加し、当該分野の視野を広げる。 ・実験等データの解析と解釈に関する指導を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会で「○○」について助言を受けた。 実験データ、助言に基づき、実験計画を一部変更、疾患における○○についての解析を加えた。 ・研究テーマにそった文献を収集した。 ・「○○○○」の手法を学習し、概ね 1 人で実行できるようになった。 	<p>主指導教員名 _____</p> <p>面談日 _____</p> <p>1 「○○」学会に参加するよう助言した。</p> <p>副指導教員名 _____</p> <p>面談日 _____</p> <p>1 結果のまとめ方を助言した。</p> <p>アドバイザー教員名 _____</p> <p>面談日 _____</p> <p>1 中間発表会で助言した。</p> <p>2 結果のまとめ方を助言した。</p> <p>3 論文の作成状況を確認した。</p>
--	----	-----------------------	---	---	---

本計画書・報告書により、教育部の研究指導方針に基づいて、研究指導が実施されていることを確認する。

※研究指導計画（「履修予定授業科目」及び「研究計画」）及び研究実施経過報告は主指導教員・副指導教員の指導に基づき作成し、学生が記載する。

※入学時（平成 31 年度 2 年次生～4 年次生については、31 年 4 月時に）、その時点から修了までの各年の研究計画を記載した研究指導計画書・報告書（博士課程の場合は 4 枚、修士課程の場合は 2 枚）を作成の上（研究指導計画の部分（履修予定授業科目・研究計画）のみの作成）、その写しを学務課第一教務係（大学院担当）に提出すること。

※計画が変更となった場合は、その都度、修正した計画書を学務課第一教務係（大学院担当）に提出すること。

※研究実施経過報告：研究指導の進捗状況、実績、成果等を記載する。

※指導教員のコメント：学生の取組み状況、指導内容、指導計画の変更等を主指導教員、副指導教員及びアドバイザー教員が記載する。

※副指導教員及びアドバイザー教員は少なくとも半年に一度は面談等を行い、所見等を記載する。

※面談等は電話やメール等による連絡でも可とする。

※他教育部の教員が副指導教員及びアドバイザー教員になる場合は、「徳島大学における学部及び大学院の学生の研究指導について（平成 2 8 年 1 0 月 1 9 日大学教育委員会決定）に基づき、手続きすること。

※研究指導計画書・報告書は入学次に作成し、各年次の終了時に研究指導実施報告の記載後に氏名横に押印して学務課第一教務係（大学院担当）に提出する（最終年次は学位論文提出までに提出する）。提出された研究指導計画書・報告書は、プログラム評価委員会等で随時確認し教育の質向上に役立てる。また、学位審査時に確認する。

※普遍的な研究倫理観を醸成するために CITI Japan の e-learning 講座を受講する。

（研究指導において、研究倫理教育を行うことを必ず記載。）

記載例

(別紙様式)

研究指導計画書・報告書

平成 年 月 日

医科学教育部 **博士課程** **医学専攻**

学生番号 _____

氏 名 _____ **印** (名前は自署又は記名押印)

主指導教員名 _____ **印** 副指導教員名 _____ **印** アドバイザー教員名 _____ **印**

研究題目 _____

各年次終了時に押印して提出
(計画時は氏名のみ)

各年次終了時の
提出日を記載

年 次	研究指導計画		研究指導実施報告	
	履修予定授業科目	研究計画	研究実施経過報告	指導教員のコメント
4年次	前期	○○概論 △△演習 □□特論 ・ 関連学会・研究会等に参加し、英語での発表を行うとともに、当該分野の視野を広げる。 ・ 研究成果をまとめ学位論文を仕上げる。論文の構成、図の作成、英語表現について指導を受ける。 ・ 雑誌社に投稿する。	ほぼまとまった研究成果を英語での口頭発表（ポスター発表）として学会で発信した。 研究成果を論文の形にまとめ投稿した。	主指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 研究テーマについて助言した 2 文献収集に助言した。 副指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 データ収集について助言した。 2 文献収集に助言した。 アドバイザー教員名 _____ 面談日 _____ 1 医療統計が不得手とのことなので評判の書籍を紹介した。

	後期	□□論 △△特別演習	・論文が受理されるように追加実験等を行い，論文を改善する。	審査員からのコメントに基づいて必要な追加実験などを行い、論文の完成度を高めた。改訂した論文が受理された。論文を発展させるいくつかの探索的な実験を行った。	主指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 「〇〇」学会に参加するよう助言した。 副指導教員名 _____ 面談日 _____ 1 結果のまとめ方を助言した。 アドバイザー教員名 _____ 面談日 _____ 1 中間発表会で助言した。 2 結果のまとめ方を助言した。 3 論文の作成状況を確認した。
--	----	---------------	-------------------------------	--	--

本計画書・報告書により，教育部の研究指導方針に基づいて，研究指導が実施されていることを確認する。

※研究指導計画（「履修予定授業科目」及び「研究計画」）及び研究実施経過報告は主指導教員・副指導教員の指導に基づき作成し，学生が記載する。

※入学時（平成31年度2年次生～4年次生については，31年4月時に），その時点から修了までの各年の研究計画を記載した研究指導計画書・報告書（博士課程の場合は4枚，修士課程の場合は2枚）を作成の上（研究指導計画の部分（履修予定授業科目・研究計画）のみの作成），その写しを学務課第一教務係（大学院担当）に提出すること。

※計画が変更となった場合は，その都度，修正した計画書を学務課第一教務係（大学院担当）に提出すること。

※研究実施経過報告：研究指導の進捗状況，実績，成果等を記載する。

※指導教員のコメント：学生の取組み状況，指導内容，指導計画の変更等を主指導教員，副指導教員及びアドバイザー教員が記載する。

※副指導教員及びアドバイザー教員は少なくとも半年に一度は面談等を行い，所見等を記載する。

※面談等は電話やメール等による連絡でも可とする。

※他教育部の教員が副指導教員及びアドバイザー教員になる場合は，「徳島大学における学部及び大学院の学生の研究指導について（平成28年10月19日大学教育委員会決定）に基づき，手続きすること。

※研究指導計画書・報告書は入学次に作成し，各年次の終了時に研究指導実施報告の記載後に氏名横に押印して学務課第一教務係（大学院担当）に提出する（最終年次は学位論文提出までに提出する）。提出された研究指導計画書・報告書は，プログラム評価委員会等で随時確認し教育の質向上に役立てる。また，学位審査時に確認する。

※普遍的な研究倫理観を醸成するためにCITI Japanのe-learning講座を受講する。

（研究指導において，研究倫理教育を行うことを必ず記載。）